

# 磐城時報

日五廿夕  
編輯兼發行所 磐城時報社  
印刷所 磐城時報社  
電話 二二二二  
郵便 磐城四十四  
代官 磐城四十四  
電話 二二二二  
電話 二二二二  
電話 二二二二

21-17

## 中等野球決勝戦 兩軍共打撃戦で終始し 磐中軍遂に捷つ

本社創立十五週年紀念中等學校  
野球大會決勝戦磐城中等對安積中  
學野球戦は既報の如く二十四日  
午後舉行したが、この日朝來快  
晴で風なく絶好の野球日和であ  
つた。安積中學選手は午前九時  
來平直ちに磐城中等學校グラ  
ンドに至り練習を開始し一方磐  
城中學選手は午前中合宿練習所  
にて練習を凝らし正午グラ  
ンドに練習を開始した。この頃觀  
衆無慮數千名に達しグラ  
ンドの周圍は全く人で埋まるの盛況  
を呈した。午後二時十五分加藤  
(球審)清水、賀澤(壘審)磐中先  
攻で試合の火蓋が切つて落され  
たが戦跡左の如く、試合を通じ  
兩軍共打撃戦で終始したため試  
合時間四十分十五分を要した。  
得点は磐中二十一對安中十七  
点で安中軍惜敗し本社の優勝旗  
は磐中軍の手に歸した。

三ゴロにて星三壘にさがる、  
次打者石田ニストライクニボ  
ールの後左翼越本壘打を放ち  
三点を先取したが鈴木齋藤凡  
退。(磐中0安中3)

第二回 (磐中)菅野三振後大  
平(弟)遊撃越のラキナスリ  
ガリに出たが後援なし。  
(安中)一死後吉村二遊間の安  
打に出たが宮本三ゴロに  
二壘に封殺され國分捕飛にて  
(兩軍0)

第三回 (磐)小林(兄)死球に  
出たが二ゴロ失に出た時小  
林生還し次打者小林(弟)の時  
坂本壘に二ゴロのバンド失  
にて殺され後四球に出たが左  
藤三ゴロ壘手の高投に三二壘  
による、大平遊ゴロ失にて生  
きて二点を回復す。  
(安)星四球齋藤投ゴロの時二  
壘へ高投し石田の左翼飛に  
星生還し鈴木木左翼飛に又も  
齋藤生還し齋藤左翼直球にた  
はれ二点を奪る。  
(磐中2安中2)

第四回 (磐)三凡退  
(安)一死後吉村四球二盗の後  
宮本の三ゴロに殺され宮本  
國分の中堅越の本壘打に二遊  
生還、星も左翼越本壘打で一  
点増したが後援凡退。  
(磐中0安中3)

第五回 (磐)小林遊撃失に生  
き坂本投手強ゴロに生き次の  
小林(弟)左翼越三壘打にて二  
点を回復し、佐藤死球、大平  
(兄)三ゴロ失に佐藤生還し大  
平三壘に至る、菅野四球、大  
平(弟)遊撃越の安打に二者生  
還同点となる、續く阿部の二  
ゴロ安打で大半生還、吉田、  
小林四球にて満塁の時坂本投  
ゴロで死ぬ間に阿部還る、小  
林(弟)の左翼安打で又二者還  
り後援凡退したが一塁十点を  
取り四点を勝ち越す。  
(安)鈴木左翼直球安打に齋藤  
左飛失にて萩原三ゴロ安打に  
左飛失にて萩原三ゴロ安打に  
鈴木生還、宮本の二遊間安打  
にて二者還り、國分中堅安打  
星三ゴロ失の間に宮本還り、  
齋藤三ゴロを打ち、國分本塁に殺  
され其の間に國分本塁に殺  
到して殺され、石田三ゴロで  
六點獲得し二点を勝ち越す。  
(磐中10安中6)

第六回 (磐)菅野三遊間の安  
打、大平四球、阿部死球で満  
塁、吉田四球で菅野還り、小  
林三振の後坂本三ゴロにて大  
平本壘に封殺され小林弟の四安  
中 3 0 2 3 6 0 2 1 0  
球でも阿部還り同点となる  
(安)一死後齋藤四球に出たが  
一三三四五六七八九  
0 0 2 0 1 0 2 0 3 4  
21-17

後援なく無為。  
(磐中2安中0)

第七回 (磐)二死後大平(弟)  
三ゴロ失に出たが阿部遊撃直  
球に死し無為。  
(安)宮本三壘越の安打に國分  
三ゴロ失に出て星中飛、齋藤  
四球で満塁となり石田遊ゴロ  
で宮本生還、鈴木木死球で國分  
生還し二点勝ちしたが後援凡  
退。  
(磐中0安中2)

第八回 (磐)一死後小林(兄)  
投ゴロ暴投に生き坂本遊ゴロ  
で小林還り、坂本三凡退によ  
る小林(弟)三ゴロに失て坂本  
も還り、佐藤投ゴロ大平(兄)  
左翼安打で小林生還後二盗せ  
んとし捕手の投球にさされた  
が三點獲得す。  
(安)吉村中堅安打、宮本遊ゴ  
ロ安打で吉村生還、國分の三  
ゴロで宮本封殺され後者三振  
で一点、兩軍同点となる。  
(磐中3安中1)

第九回 (磐)菅野四球、大平  
(弟)遊ゴロ失阿部死球で満  
塁となり吉田の三ゴロにて菅  
野、大平還り、小林(兄)の左  
翼安打で阿部も生還、坂本一  
飛後小林(弟)左翼直球安打で  
小林(兄)ホームインして四  
点を獲得し佐藤左翼飛球で終る。  
(安)石田左翼直球鈴木投ゴロ  
で二死となり齋藤三振。  
(磐中4安中0)

## 小名濱町で五日間 町村統計講習會 明年度國勢調査準備

今明年度に亘り實施の農業者調査に決定、講師は内閣統計局  
並に明年度施行の國勢調査は統計官中川友長、農林省同長井  
共に統計界創始以來の大事業な影一の兩氏である、尚ほ縣統計  
の一般事務者にこれに趣意協同して講習會を終了後の八月十  
底を計ることになり縣では來月日主催として同小學校に縣下市  
五日から五日間小名濱町町村統計主任者大會を開催する  
小學校に縣下の市町村統計關係が出席者は四百餘名に達すべく  
者を集め統計講習會を開催する盛況を豫想される。

## 十二時間四十分で 竹馬で富士山踏破 花澤君の壯舉成功 富士山から本社に電報

二十三日平町を出発した竹馬宮路を應援團の聲援に一層力づき  
士登山の花澤輝一君は廿四日午つ、頂上めがけて登り午後五時  
前六時吉田口淺間神社を見送り漸く頂上を極めたが總時間十二  
時間の四十十分である。  
主人その他關係有力者百餘名の  
萬歳聲裡に出発、午前八時卅分  
馬返しに到着桂尾で卅分休憩し  
愈々吉田口特有の深林帯を元氣  
に充ちた應援團員卅餘名と共に  
わけて往き會ふ多數の登山者を驚  
嘆せしめつ、登攀した、何分に  
も登山口にはいはゆる土用山を  
登りての登山者殺到してゐるに  
際して選手は深甚の注意を拂ひ  
二間幅の登山道路を右に左にさ  
けて道を選びつ、登り午前十一  
時五分目暮、天界五合目館刑  
部才兵衛方で晝食をとり約一時  
間休憩して愈々急勾配の熔岩坂  
を見合はせる方針で石城郡植田

## 丹後澤は 近く拂下げる 入山自治懇親會 石城郡下

平稅務署では今年度内に雜種  
地を整理拂下げる事となり目下  
佐々木、柏木兩主任となり調  
査中であるがすでに拂下げ手續  
を済ましたものでも七萬餘圓  
に達した、然し石城郡三坂村大  
神谷青年黎明會主催石城郡下青  
年雄辯大會は八月十日午後五時  
から平町聚樂館に開催する管で  
二演説内容は政治、思想問題に  
あらず十五分以内のもので希望者  
は神谷村神谷一郎氏宛申し込む  
べし。

## 北海道・樺太方面 徒歩旅行の途上から (第十二信) 北海道にて 松田正一

無論親熊を先に倒して後に捕  
えるのだらうだが、生後半才  
にもなるとう大の男も方に  
於て劣るやうである、現在此  
の子熊が十頭程飼はれて居る  
が可愛ものである。昔は酒一  
升位でうまくやられたのだら  
うであるが、今では市で此等  
を防いでゐるしまた衣食住總  
てを支出して保護してゐるの  
だらうであるから何等の苦痛  
もない筈なのだ。やはり酒故

## 青年雄辯會 石城郡下

と記憶してゐたが、同日旭川  
を發して降雨の午前中に約七  
里程歩いて、午後の晴れたこ  
ころで拾里程、少し無理な事  
は能く知つてゐるが、つい歩  
いてしまふ。如何に自分がす  
う／＼しくとも明るい内から  
宿を頼む氣にもなれず。また  
雨が降つてゐても、知らぬ家  
にさう／＼世話になつて居る譯  
にもゆかずと云ふ様な理由で  
雨の中でも終ひ迷ひ出して夕  
方になる迄で迷ひ歩き愈々暗  
くなつて仕方がないといふ場  
合にびよ／＼と首を下げて門  
口に立つ、先方では何者かと  
用心する、其處で此方の理由  
を話す、すると何時の場合に  
も定まつて驚く。(つづく)

## 平窪蘭品評會 石城郡平窪村蘭品評會は二十四日午 後一時から同村明智源七方に於 て開催した。

飯野、鹿島地方は本年度内に整  
理費却する方針である、なほ平  
町から出願した舊城址丹後澤は  
町が公園計劃を立てゝゐる際  
でもあり近く特別な證議をなし拂  
下げる筈で平町でも喜んでゐる

